

「2016年記者会見 & 賀詞交歓会」 「イベント EXPO2016」 「エコプロダクツ 2015」

神谷 直亮

今月は、まず、年初に開催された衛星放送協会の「2016年記者会見 & 賀詞交歓会」と第9回を迎えた「イベント EXPO2016」の様子をレポートする。次いで、昨年の最後のイベントとなった「エコプロダクツ 2015」展示会に遅ればせながら触れたいと思う。

「2016年頭記者会見 & 賀詞交歓会」

有料・多チャンネル放送事業者の団体として注目される衛星放送協会が、1月20日に年頭記者会見と新年賀詞交換会を開催した。この年頭記者会見で和崎信哉会長は、「2015年11月末時点での有料・多チャンネル放送の加入者が1,360万件に達し、一年前より18万件増加した」という心強い情報を開示して会場を盛り上げた。しかし、「安閑としておられないのは、メディア環境に2つの変化が表れているから」と指摘し気を引き締めていた。取り上げられた2つの変化の1つは、NetflixとAmazonが、昨年からの動画配信を始めたことで視聴者の視聴形態に変化が見られること。さらに在京民放5社による「TVer (ティバー)」と呼ばれるテレビポータルサービスがスタートしたことにも触れていた。もう1つの変化は、CS衛星放送、IPTV、CATVの3つのメディアで4K放送サービスが始まり、放送サービスの高度化が一気に進んだことが挙げられた。もう1つ付け加えていたの

は「これらに輪をかけるように今年には、BS衛星放送で4K8Kの試験放送がスタートする」ことだ。このようないくつかの変化を踏まえて、和崎会長は、「年頭に当たり全会員は、新しい技術に対する新しいビジネスモデルの構築を心掛けなければならない」と強調した。衛星放送協会としての具体的な対応については、「番組アワードを今年も継続し、専門的でこだわりのあるコンテンツの重要性への認識を高め、制作面での競争意識の向上を図る。ホームページのリニューアルに努めて視聴者のアクセスを促す、違法動画対策を強化する」の3点を取り上げた。

「イベント JAPAN2016」

インタークロス・コミュニケーションズが主催したイベントに関する総合展示会「イベント JAPAN2016」は、1月26日、27日に東京ビッグサイトで開催された。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを目標にして、イベント業界が大いに活気づいているという前触れに引かれて行ってみた。

「イベントのミッションを最大化する」をテーマに掲げた展示会場には、映像、音響、照明、展示装飾、設営、遊具レンタル、特殊車体、聴覚・視覚障害者支援ツールなど、イベントに関連した85社・団体が出展して、多種多様な展示と実演を繰り広げていた。

中でも興味を引いたのは映像関連の展示とデモで、この分野を盛り上げていた代表的な出展者は、タケナカ、コーエイ、ダイナモアミュージメント、エム・ソフトの4社であった。

タケナカは、正面に設営したステージに異なる形状のLEDディスプレイを設置して、「レジテージ」と名付けた同社独自のソリューションを紹介した。「レジテージ (Leditage)」は、LED + Digital + Atage から得た造語とのことであった。ディスプレイの内訳は、3.5m x 2.5mが1面、1.5m x 3mが2面、1.5m x 2.5mが2面 (いずれもクリアイトLED製で、2.6mmピッチ) で構成されていた。これらのディスプレイの両サイドに、さらに1.5m x 1.5mが2面配置され、さらに50cmのキューブ型LEDを9個組み上げた立体ディスプレイ (3.9mmピッチ) をステージの両側に据えるという非常に複雑な構成であった。デモは、生バンドと再生映像の両方で、これらをすべて同期させて華やかに行われ来場者を釘づけにしていた。

コーエイは、「アポロ20」と名付けたLEDカーテンと「ウォーターサイン」という珍しい空間づくりを紹介した。前者は、FPCとシリコンゴムコーティングを使用した非常に柔軟で透明感のあるストリップ状のカーテンで、ビデオディスプレイ機能がある。すでにファッションショーや音楽コンサートで使用してもらった実績があるという。

後者は、滝のように落ちる水滴を専用パソコンで制御して、光を投射することで映像や文字を浮かび上がらせるというユニークなシステムである。暑い夏の夜などに、涼やかに楽しめる水と光の演出と言える。ダイナモアミュージメントは、「紙アクアリウム」と呼ばれるイベントパッケージを実演した。専用の紙に来場者がカラーペンで描いた魚の映像をミニスキャナーでスキャ

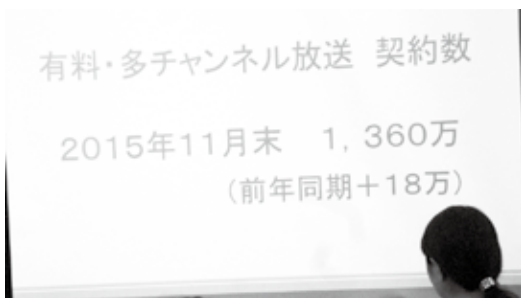


写真1 衛星放送協会の和崎信哉会長は、年頭記者会見で「2015年11月末時点での有料・多チャンネル放送の加入者が1,360万件に達した」と発表した。



写真2 タケナカは、多様なLEDディスプレイを組み合わせた「レジテージ」ソリューションを紹介して来場者を釘づけにした。

し、150インチのスクリーンに投影して見せるというものである。面白かったのは、Optoma社のプロジェクターとXPAND社のアクティブメガネを使って、3Dアクアリウムを再現していた。「紙アクアリウム」の他に、「花火」「クリスマス」「ハロウィン」などのアプリケーションを用意していると熱心に売り込んでいた。

エム・ソフトは、裸眼3DサイネージとハンディタイプのヘッドマウントディスプレイによるVR体験を目玉にしていた。ブースの説明員は、「観光地でのイベントを盛り上げるツールとして役立ててもらいたい」とPRに余念がなかった。

まだ9回目の開催とのことであったが、会場を一回りして、人、モノ、情報の交流の場としてのイベントが、これからますます活性化していくような印象を持った。

「エコプロダクツ 2015」

「わたしが選ぶ クールな未来」をテーマに掲げた「エコプロダクツ 2015」は、12月10日から12日まで東京ビッグサイトで開催された。第17回を迎えた今年の会場には、700を超える企業、団体、NGO、NPO、大学などが勢ぞろいして、それぞれの立場からエコライフに対する主張を展開しながら多様な製品、機器、システムなどを出展していた。事務局の発表によれば、来場者は16万9,118人に達したという。

予想通り大きなブースを構えたのは、家電メーカー、自動車・タイヤメーカーであったが、衛星業界からも三菱電機が出展して会場を盛り上げていた。

「夢」の宇宙から「利用する」宇宙への貢献をキーワードにした三菱電機のブースでは、静止地球環境観測衛星「ひまわり8号・9号」のPRに余念がなかった。ひまわり8号は、2015年7月からすでに運用が開始されており、9号については2016年度内に稼働の予定と語っていた。ブースの説明員によれば、「先代のひまわり7号に比べて撮影のスピードが上がり、解像度も鮮明になったので、頻発する気象災害対策に大いに貢献できる」という。エコへの貢献



写真3 コーエィは、ビデオディスプレイ機能を備えたストリップ状のLEDカーテンを紹介して来場者の興味を引いた。

については、「例えば、環境管理や土壌汚染状況のデータ取得などの分野が考えられる」と語っていた。

昨年、第1期水循環変動観測衛星「しずく（GCOM-W1）」を出展して三菱電機と競っていたNECが、今年どういうわけか出展を見送った。この衛星は、すでに第2世代の高性能マイクロ波放射計で地球全体の水循環に関する詳細な観測を始めており、エコに大いに貢献しているのに残念だ。

衛星以外で目に付いたメディア関連のデモは、「触れる地球、感じる未来」と「高尾の森を見よう、行ってみよう！」であった。

シアターふうの設置された「触れる地球、感じる未来」での展示とデモは、京都造形芸術大学の竹村真一教授の発案で始まったという。この「触れる地球」が注目を集めたのは、単に触れるというだけでなく、海洋研究開発機構、航空宇宙研究開発機構、ウェザーニューズ、東京大学などからインターネットを介して一時間ごとにデータが更新される「地球シンセサイザー」になっているからと言ってよい。ブースには、水蒸気、温度、海流、CO₂濃度、海底地形と生成年代などをシンセサイズできる地球儀が5台並んでおり、来場者が手で触れて刻々と変わる地球上の有様を再確認していた。

「高尾山・奇跡の

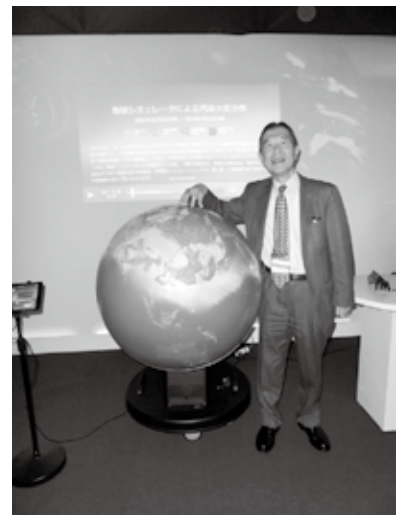


写真4 「エコプロダクツ」の会場では、地球シンセサイザー機能を持った「触れる地球」が話題を呼んだ。

森」の支援を行っているのは、セブン&アイ・ホールディングスが設立したセブン・イレブン記念財団である。高尾山は、八王子市の西にある海拔600mほどの山であるが、「タカオスミレ」をはじめとしてスミレの種類がきわめて多いとのこと知られる。今回、同社のブースでは、「高尾の森を見よう、行ってみよう！」というタイトルで、360度パノラマ写真を再生して見せていた。非常に臨場感のある映像であったが、残念ながら4Kの映像ではなくフルHDであった。また、撮影システムのメーカーについては、公開できないとのことであったが、リコーの360度全天球イメージ撮影デジタルカメラ「THETA（シータ）」と思われる。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

緊急報道
ハイビジョン映像伝送
Ku-band/X-band

CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り
120cmφ型

衛星通信用超小型可搬アンテナ
Suitcase CCT Satellite Communications Terminal

5分で運用開始

IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社
http://www.bizsat.jp TEL: 03-5772-9125

AI Communications k.k.